

# 平成27年度 租税教育に関する研究発表要項

岩沼市立岩沼南小学校

教諭 丸谷 由浩

## 1 研究主題

未来の望ましい納税者を育てる指導の実践  
～税金に対する正しい知識を身に付け、  
正しく納めようとする態度を養う指導を通して～

## 2 主題設定の理由

昨今、消費税増税や、企業の所得隠しの問題などの税金に関わるニュースがテレビや新聞紙上などのメディアを賑わすことが多い。子どもたちも「税金」という言葉を何度も見聞きしているが、普段の子どもたちの会話から、「税金」に関する正しい知識を身に付けている子どもは少なく、マイナスのイメージをもっている児童が多い。また、家庭でも、保護者が税金について正しく子どもに話していないケースが多く、税金は取られるものといった認識が強いことは確かである。

そこで、小学校の段階から、税金に関する学習を取り入れ、望ましい納税感や納税者像を育成し、税金は「取られるもの」ではなく、「納めるもの」という発想の転換を行いたい。そのために、インターネットや書籍から情報を収集し、自ら課題を設定し、調べ学習を行わせることで、税金についての正しい知識を身に付けさせたい。このような学習活動を通し、税金は私たちの社会を支える上で欠かせないものであるという認識をもたせることができると考え、本主題を設定した。

## 3 研究目標

児童一人一人が、税金に関する課題を自ら設定し、レポートとしてまとめたり、発表会をおこなったりすることで、税金に対する正しい知識を身に付け、望ましい納税感や納税者像を育成できる指導法を探る。

## 4 研究の方法

- (1) 税金に対する意識調査を行う。
- (2) 租税教室を開催し、税金の意義や役割について理解を深めさせる。
- (3) 個人で課題を設定し、インターネットや書籍を使って調査し、レポートにまとめる。
- (4) 発表会を行い、お互いの発表を聞き合うことで、税金についての理解を更に深める。
- (5) 事後調査を行い、税金に対する意識の変容をみる。

## 5 研究の計画

平成26年12月 (5学年時)	実態調査 租税教室(講師 木村経営管理会計 税理士 木村拓也氏) 事後調査(1)
平成27年 5月 10月 11月 (6学年時)	実践授業(社会科) 実践授業 事後調査(2) 研究のまとめ 研究発表会

## 6 研究の概要

(1) 児童の実態(平成26年度5年1組 男19名 女20名 計39名)

実態調査の結果は次の通りである。(平成26年12月12日実施)

Q1 「税金」という言葉の意味を知っていますか? ・知っている(29) ・知らない(10)
Q2 税金は誰が納めるものでしょうか? ・全国民(大人も子供も)(16) ・大人だけ(15) ・子供だけ(0) ・納めたい人だけ(0) ・分からない(8)
Q3 税金にはどんな種類があるでしょうか?(複数回答) ・消費税(38) ・納税(16) ・関税(5) ・国民税(4) ・たばこ税(1) ・住民税(1) ・酒税(1) ・固定資産税(1) ・無回答(1)
Q4 税金はどのようなことに使われていると思いますか? ・国のため(16) ・天皇陛下や皇室の活動費(12) ・議員、公務員の給料(6) ・道路の補修(5) ・国の借金の返済(4) ・震災復興(4) ・学校建設(3) ・公園の維持管理(2) ・教科書(2)
Q5 税金は必要だと思いますか? ・必要(31) ・不要(2) ・どちらともいえない(6)

- ・税金という言葉は知っていて普段から使っているが、税金の意味を正しく認識していない児童が多いことが分かった。
- ・生活に密着した消費税についてはほぼ全員が知っていたが、「納税」という言葉を税金の一種と勘違いしている児童が16名いた。
- ・税金の使い道については、漠然とはしているものの、国が何かのために使っていると感じている児童が半数近くいた。また、皇室の活動のために税金が使われていることを知っている児童が多かった。
- ・税金の必要性については、3/4以上の児童が、何らかの必要性を感じているが、何故必要なのかを具体的に説明できる児童は少ない。

(2) 学習計画 (総合的な学習の時間9時間 社会科1時間 計10時間扱い)

次	主な活動内容	時間
1	H26年度 (5学年時) ・事前調査 ・租税教室 (講師 木村経営管理会計 税理士 木村拓也氏) ・事後調査①	1
	H27年度 (6学年時) ・「大化の改新と天皇の力の広がり」で租・庸・調を学ぶ。 ・「わたしたちのくらしと税金」を活用し、税金に関する基礎を学ぶ。	1 2
2	・各自課題を設定し、書籍やインターネットを使って調査する。 ・調べた内容をレポート形式でまとめる。	2
		3
3	・発表会を行い、調べた内容を友達同士で共有し合う。 ・事後調査②	1

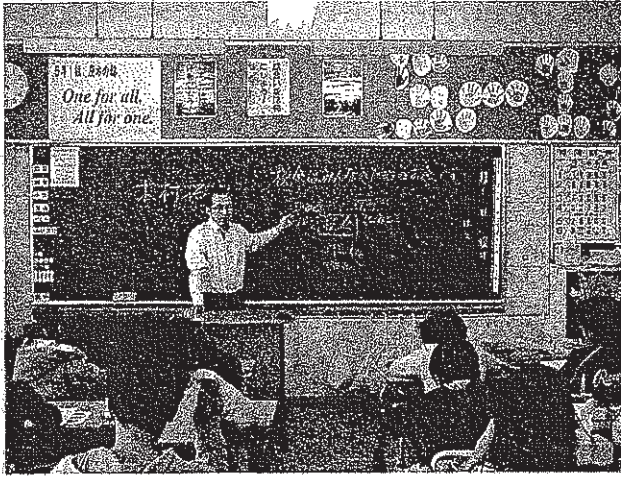
(3) 実践の概要

【第1次】

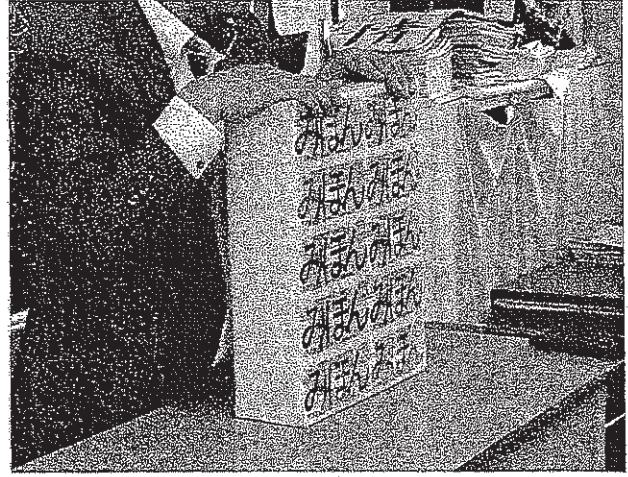
① 租税教室 (平成26年12月17日)

講師 木村経営管理会計 税理士 木村拓也氏

- 内容
- ・VTR教材「マリンとヤマト 不思議な日曜日」
  - ・税金の役割と大切さについて
  - ・暮らしの中で、税がどのように使われているのか



木村氏の税金の授業



1億円の登場にビックリ!

○租税教室後の児童の感想（事後調査①）

税金がなくなってしまうとたくさん  
 のもんたいが起きてしまうこと  
 がわかりましたあと、税金はみんな  
 のためのお金という意識がわすれ  
 ないようにしたいです。この時  
 間だけの授業だったけど、税金の  
 このあと今までわからなかったことが  
 よくわかりました。

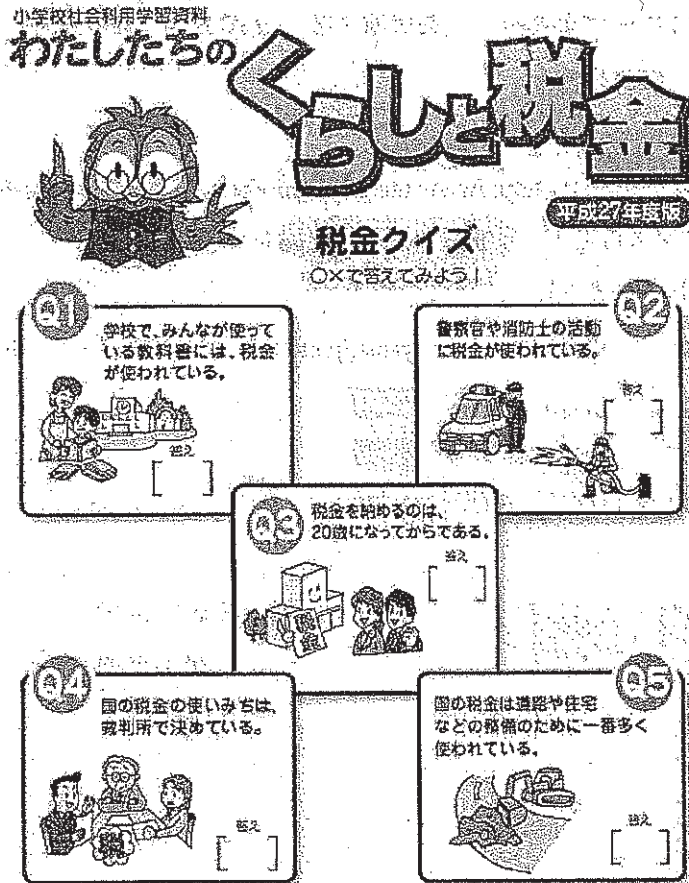
最初は、税金がなくなると、消費税がなくなると、みんな  
 たくさんのお金を手に入れることができると思いましたが、  
 本当にそうか、というところからDVDを見て、自分たちが  
 知らないところまで、DVDで見たのとは違  
 った税金が、はた、税金があることが、みんな  
 にとって、大切なことだと、思いました。

税金は、みんなの生活のために必要だと、思いました。税金がな  
 くなると、みんなの生活が、大変になると、思いました。税金は、  
 みんなの生活のために必要だと、思いました。税金がなくなると、  
 みんなの生活が、大変になると、思いました。税金は、みんなの  
 生活のために必要だと、思いました。税金がなくなると、みんなの  
 生活が、大変になると、思いました。税金は、みんなの生活のため  
 に必要だと、思いました。税金がなくなると、みんなの生活が、  
 大変になると、思いました。税金は、みんなの生活のために必要  
 だと、思いました。税金がなくなると、みんなの生活が、大変に  
 なると思いましたが、税金は、みんなの生活のために必要だと、  
 思いました。税金がなくなると、みんなの生活が、大変になると、  
 思いました。税金は、みんなの生活のために必要だと、思いました。

税金は、みんなの生活のために必要だと、思いました。税金がな  
 くなると、みんなの生活が、大変になると、思いました。税金は、  
 みんなの生活のために必要だと、思いました。税金がなくなると、  
 みんなの生活が、大変になると、思いました。税金は、みんなの  
 生活のために必要だと、思いました。税金がなくなると、みんなの  
 生活が、大変になると、思いました。税金は、みんなの生活のため  
 に必要だと、思いました。税金がなくなると、みんなの生活が、  
 大変になると、思いました。税金は、みんなの生活のために必要  
 だと、思いました。税金がなくなると、みんなの生活が、大変に  
 なると思いましたが、税金は、みんなの生活のために必要だと、  
 思いました。税金がなくなると、みんなの生活が、大変になると、  
 思いました。税金は、みんなの生活のために必要だと、思いました。

② 「わたしたちのくらしと税金」を活用した実践

実践の初めに、「わたしたちのくらしと税金」の表紙に取り上げられている税金クイズを実施した。(平成27年度6年1組 男20名 女20名 計40名)



- Q1 使われている・・・40人  
使われていない・・・0人
- Q2 使われている・・・40人  
使われていない・・・0人
- Q3 二十歳になってから・・・21人  
二十歳前でも・・・19人
- Q4 裁判所で決めている・・・2人  
他で決めている・・・38人
- Q5 一番多い・・・29人  
一番は他の費用・・・11人

実施後に、Q3に関して子どもたちと話したところ、消費税については、「納めている」といった感覚はなく、店から「取られている」といった感じが強いという。また、税込み価格表示が一般的になり、消費税額を提示される場面が少なくなったことも、子どもたちが消費税を納めている実感をもてなくなっている一因となっているようである。

Q5に関しては、他の費用と答えた児童も、何となく違うと思ったという回答が多く、社会保障関連費が一番多くの割合を占めていると知っている児童は皆無であった。

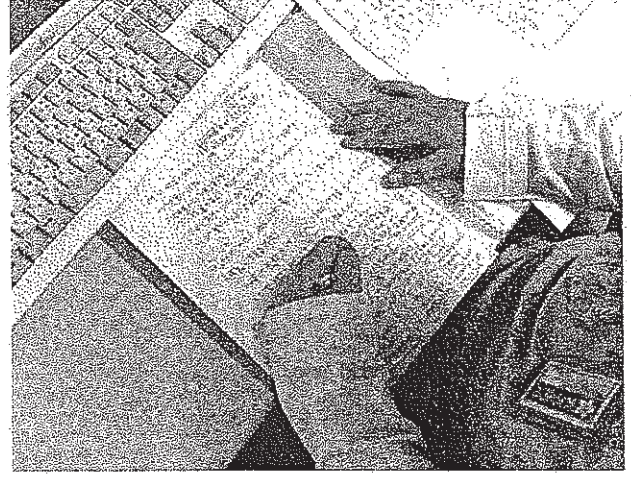
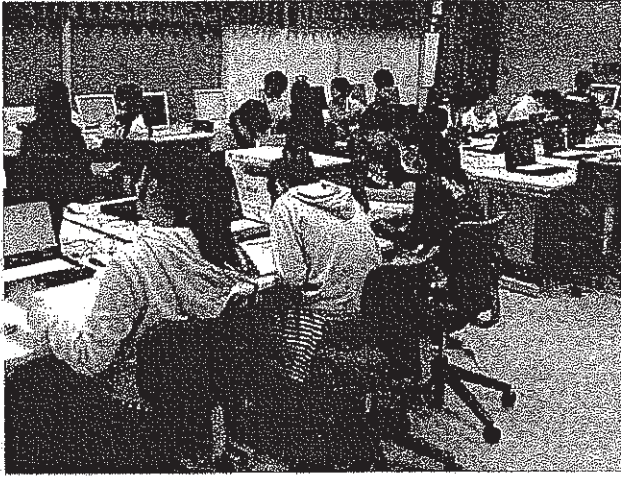
クイズの後、「わたしたちのくらしと税金」に沿って、税金の意義、仕組み、使われ方、国や県の予算などについて学び、個人の課題を設定する上での参考とした。

【第2次】

児童が設定した課題をおおまかに整理すると次の通りである。

- ・税金の種類 (13)
- ・税金の仕組み (11)
- ・税金の使い道 (8)
- ・税金の歴史 (4)
- ・世界の税金 (2)
- ・その他 (2)

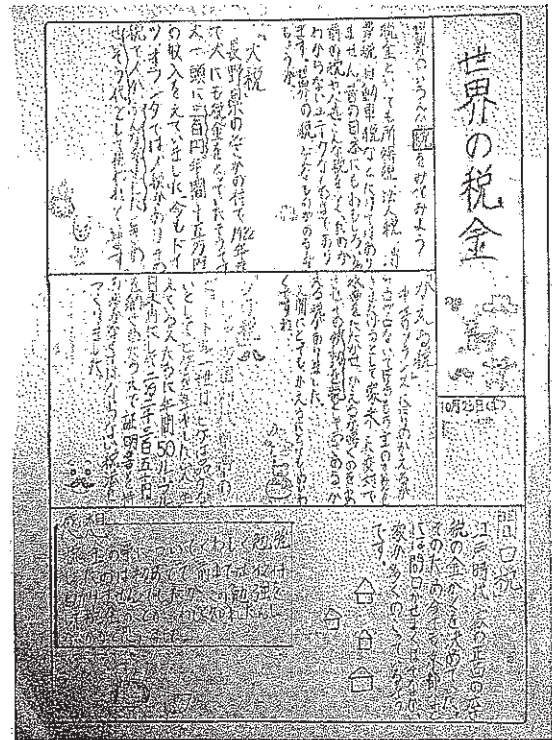




書籍やインターネットを活用した調べ学習の様子



レポートにまとめている様子



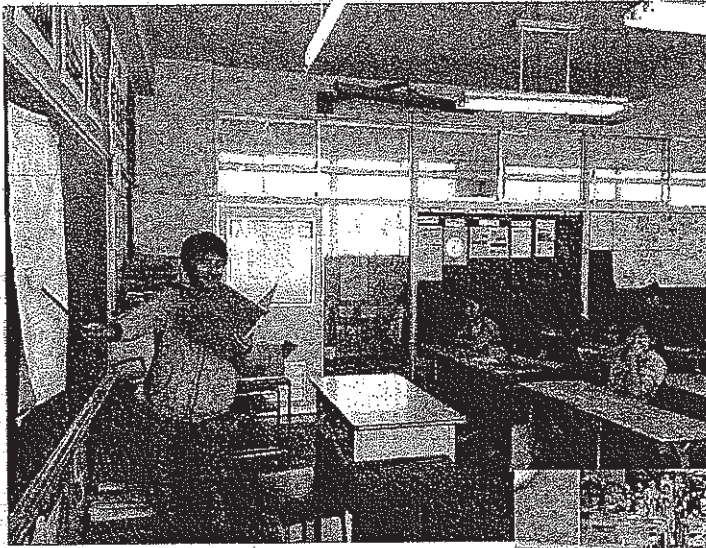
完成した児童のレポート



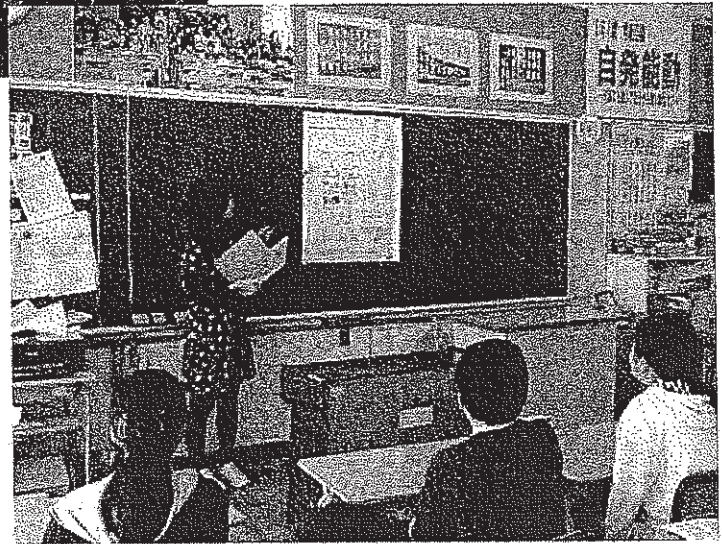


【第3次】

レポートを拡大コピーしたものを黒板に掲示しながら、一人一人発表を行い、調べた内容を友達同士で共有し合った。



発表の様子①



発表の様子②

○学習を振り返って（事後調査②・児童の感想から）

税金の使い道が、日本の国の中だけではなく、外国の援助のためにも使われていることを知り、海外の人を助ける意味でも、税金は大切であることを感じました。

学習の前までは、消費税なんて無くなればいいのに…とっていました。しかし、税金の学習をして、消費税は福祉のために使われていることを知りました。また、税は私たちの生活を豊かにするものであることも学びました。

最初は「税金なんて無ければな」と思っていました。しかし今、税金の大切さがとても分かりました。

税金の大切さはよく分かりましたが・・・、消費税が増えるのは少し嫌です。

税金の使い道、税金の種類のことがよく分かりました。税金は、病気になったときにも使われていることも知りました。

税金は、お金を取られるだけで嫌だと思っていたのですが、学習をして、必要なものだと思いました。人のため、社会のために役立つ税金を、これからはしっかりと納めたいと思います。

豊かな生活を送るためにも税金は必要であることが分かりました。私たち、小中学生は、税金があるから、学校で勉強できるのだと思いました。ありがとうございます。

消費税以外にも、たくさんの種類の税金があることが分かりました。税金は、将来安心してくらすためにも必要であることも分かりました。税金の勉強をしてよかったです。

## 7 研究の成果と課題

### (1) 成果

- ・租税教室において、税金が無くなったら、どんな社会になるのかを指導して頂いたので、子どもたちに、税金は必要なものであるとう認識をもたせた上で学習を始めることができた。
- ・実践の初めに、「わたしたちの暮らしと税金」を活用したことで、税金の基礎知識を楽しみながら学ぶことができた。
- ・税金の必要性をあまり感じていなかった子どもたちが、税金に支えられた生活を知ることで、その必要性をより強く感じる事ができた。
- ・一連の学習活動を通して、税金は「取られるもの」から「納めるもの」へと、子どもたちの意識の転換を図ることができた。

### (2) 課題

- ・税金に対する正しい知識を身に付けさせることはできたが、具体的な税金の納付方法や確定申告の概要などには触れることはできず、研究主題である望ましい納税者を育てる指導を具体的に行うには至らなかった。
- ・今年度、実践発表校となったことで、総合的な学習の時間に位置付けて今回の実践を行った。本来であれば社会科の指導内容であるが、標準の配当時間は1時間のみである。租税教育の充実を図るためには、指導計画を年間指導計画にどのように位置付けていくか検討が必要である。